

明木公民館だより

《平成24年春号》

2012.3.2



発行・編集/明木公民館

ごあいさつ

今冬は、積雪量は少なかったものの、殊の外寒さの厳しい日が続き、ようやく梅の花が咲きだした。追いかけるように桜便りも聞かれる頃となりました。

一昨年4月より明木公民館長を拝命し、2年間地域の皆様の多大なるご支援、ご助言を頂き、何とか任務を果たすことができました。しかしながら、皆様からご覧になれば、ご不満も多々あったことと、心からお詫び申し上げます。地域内では、老人クラブ、婦人会、地域のサロン、児童・生徒さんへの話、地域外では、萩往還観光案内人養成講座講師など、浅い知識を省みずお話をお聞き頂き、心から感謝申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、退任のごあいさつといたします。

矢田 征男

4月の行事予定です

4月 9日	(月)	明木小・中学校入学式
4月15日	(日)	萩市民春季ソフトボール大会(予選)
4月22日	(日)	萩市民春季ソフトボール大会(予選) 萩市民春季バレーボール大会

【耳より情報】

4月6日(金)14時30分～ ちはるえん

さるまいざ猿舞座が「猿まわし」を披露します。観覧

料は無料で、どなたでも参加できます。

「マルチメディアセンターの調理室は使いにくい！」というご意見をいただきました。

市内の公民館は、毎年、利用される方にアンケートをお願いしています。今年の明木公民館のアンケートでは、調理室について沢山の意見をいただきました。また、「毎年同じこと（調理室が）使いにくい」を書いているのに少しも改善されない」というご意見もあり、申し訳ない気持ちでいっぱいです。ご指摘いただいた点については、調理室を利用されている団体の方にアドバイスをいただきながら館内で検討し、次のように改善することになりましたので、よろしく申し上げます。

コンロの火が弱く、数が足りない。 ⇒ **ガス釜を2台外し、鈍物コンロを2台設置します。**

ガス釜を3台設置していますが、一度に3台を使うことは年に数回です。また、現在設置している

2口のガスコンロは、マルチメディアセンター開設時に設置したもので、レンジ台の広さ・奥行きに合わせたため、家庭用コンロより小さく火力も弱いものとなっています。公費で購入したもので、故障もしていないため新規購入は難しいように思います。ガス釜を2台外して、現在ある火力の強い鋳物コンロ2台を設置しようと思います。ご面倒をおかけして申し訳ありませんが、ガス釜を一度に2台、3台使われる場合には、鋳物コンロとガス釜を替えて使用してください。ご協力をお願いします。

調理器具が揃っていない。 ⇒ **予算の範囲内で揃えていきます。**

「中華なべが欲しい」というご意見をいただきましたが、3個あります。ザルやボウルはステンレス製が良い、食器が婚礼用で実習向きではないなど、いろいろなお気づきもいただきました。予算が限られて

いますので一度には無理かもしれませんが、どこに何があるのか分かるような収納と表示をこころがけ、必要な物は買い足していきたいと思います。ご協力をお願いします。

～石ノ巷山（いしのごやま）の名前について～

矢田 征男

石の巷山千本桜 ♪石ノ巷山上 空晴れて～、と明木小中学校合同運動会で応援歌として歌った記憶のある方が多いと思う。今、石ノ巷山へは車で林道洗谷線を通り山頂まで行くことができる。頂上帯は明木中学校卒業記念植樹として植えられた桜が1,000本を超え、桜の名所となっている。明木中学校PTAだより「石ノ巷」も地域の方に親しまれている。

石の巷 現在、国土地理院発行地図には「石ノ巷山」と記されている。

Q：石ノ巷という名前はどのようにしてついたのですか。

A：頂上付近の石に小さな子どもの足跡があるから。小馬の蹄（ひづめ）形の石もある。

等、いろいろ話を聞くが、今もって不明である。江戸時代には、どのように呼ばれていたのか。古文書や古図では次のように記されている。

(1) 庄屋から1740年に藩へ提出された地下上申（じげじょうしん）では「いすノこ山」。

(2) 藩主が参勤交代の途中で広げて見るため、1763年頃描かれた行程記（こうていき）絵図では「イ
スノコ嶽」。

(3) 庄屋から1845年に藩に提出された風土注進案（ふうどちゅうしんあん）では「いすの子嶽」「い
すのこふ（う）嶽」「いすのこふ（う）」。

(1)～(3)中、いずれも「石」の部分を「いす・イス」と記している。この場合、「いす」は「いする」であり、「石が動く」ことである。石和(いさわ)、石川(いしかわ)、石動(いするぎ)、石上(いそのかみ)のように「石」はサ行でサ・シ・ス・ソと母音変化している。又、石見(いわみ)のように「いわ」とも読み、岩=大きな石の意味にもなる。

「巷」は「こ」「コ」「子」「こふ」と記されており、「巷」は「こ」「こう」いずれの読み方をするのか。現在では「こ」の読み方が一般的である。では「こ」にはどのような意味があるのか。この場合、前述(3)の中の「こふ(う)」で考えるべきである。

石ノ巷山頂付近に設置されている案内標識により、北側斜面の階段を少し下ると大岩がある。石ノ巷山桜保存会等により、その大岩にしめ縄が張られている。急峻な藪の中を更に下ると大小の岩が無数にあり、宇部市楠木吉部の大岩郷や美祢市万倉の大岩郷を小規模化したような石の河がある。

明木川の源流は矢代集落の河原谷である。この「河原谷」の読み方は風土注進案には「高良谷」と記されており、「こうらだに」である。矢代集落の人達もこのように言うておられる。江戸期、隣村の川上村でも「明木川は明木村矢代高良谷より・・・」と記している。矢代・河原谷には、大きな石が川の中にゴロゴロしている。

前述の「こう」「郷」「河原」「高良」「ゴロゴロ」はいずれも大きな石が沢山あり河(かわ)のようになっている状態を表す。箱根温泉郷の一つである「強羅温泉」も、大きな石が一带に沢山あることから「ごうら」の名前が付いたと言われている。

※(注1) 「郷(ごう)」は、一般的には「村里」の意味で使われる。

(注2) 「河原(かわら・かわはら)」は、一般的には「石や砂が堆積した広い所」の意味で使われる。

「嶽(だけ)」は「崖(がけ)」と同意語であり「急峻な山」を表す。

以上のことから「石ノ巷山」は「いす」は石が動くこと、「こう」は河原、「嶽」は急峻な山となり、「石が転げ落ちて河のようになった急峻な山」ということになる。林道洗谷線を車で行くとそのような状態を見ることができないが、この名前を考えた人は、この山への近道である西来寺の谷か、又は原集落側の越ヶ迫(こえがさこ)から昇ったのではないだろうか。

以上は、ことばからの推論であり、由来を諸説ご存知の方のご意見をお待ちしたい。

石ノ巷山では、もうすぐソメイヨシノや八重桜の関山(かんざん)など、千本桜が順々に咲き乱れる。春はやはり桜が一番である。